

## 佐藤 圭 さん (平成14年卒)

JR東日本 盛岡駅 助役

### ◇お仕事の内容を教えてください

駅でみどりの窓口・改札業務、運輸区で車掌・運転士業務、支社で福利厚生や効率化施策・社員教育計画・企画業務などを経験し、3年ほど前から盛岡駅で助役(管理者)として仕事をしています。

盛岡駅をご利用のお客さまへの接遇の他、周辺エリアで発生する各種異常時対応、それに備えた訓練等の企画、人材育成。そして当社から他社に出向している社員の面談など、業務は多岐に及びます。



### ◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

JR東日本をご利用のお客さまの笑顔と、部下社員の成長を感じると何にも代えがたい喜びを感じます。

また企画やイベントが成功したとき、上司から褒められたときの自己実現はたまらなく嬉しいです。(笑)

仕事や研修を通じて多くの仲間と出会えたことも財産であり喜びです。昨年は研修で1カ月間マレーシアに渡航しました。海外にも仲間ができて嬉しいです。

また、盛岡駅開業130周年イベントの一環で「動画で！駅まつり」を開催し、母校である専大北上高校吹奏楽部の動画撮影におじゃましました。仕事を通じて母校に行けたことは嬉しかったです。

### ◇将来の夢を教えてください

ズバリ 北上駅長！…と言いたところですが。(笑)

JR東日本の事業を通じ、地元北上や岩手といった地域社会を牽引して、世界へ魅力を発信していきたいです。

### ◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

お世辞にも勉強も部活も優等生とは言えない生徒でした。(笑) でも愉快的な仲間と巡り合い、思い出深い青春時代を過ごしました。

当時人気番組だったTBS系列の「学校へ行こう！」が来た時は、屋上から思いのたけを叫ぶ「未成年の主張」コーナーに出演して、V6と共演しました。

また、JR東日本に就職が決まったときは、渋川洋子恩師と抱き合って喜びました。

### ◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

『わたしはなんとなく、まだ人生の助走期間にいるような気がしていた。どこかで人生の本番がはじまるので、そうしたら全力ダッシュすればいいのだろうなと思っていた。毎日が生きがいに満ちた本番の人生。いつか始まるはずの輝かしい本番。』

だがいつまでたっても本番は来ない。そうして気付いた。ダラダラ走っているこの毎日が、人生の本番なのだ。助走期間なんてなかった。ずっと本番だった。

もし充実している人生しか本番の人生と呼ばないのだとしたら、何も選ばない怠惰な人間にはいつまでも人生の本番は来ない。』

後輩の皆さんには本当に「豊かな人生」を歩んで行ってほしいと想っています。

前向きに頑張ることを揶揄する人生。

他者に責任転嫁ばかりしている人生。

自分には手が届かないと最初から諦める人生。

そんなつまらない人生は送ってほしくありません。

チャレンジしたいこと、やりたいことがあれば躊躇することなく進んでください。

\*\*\*\*\*

#### ☆取材後記

私の印象ですが、鉄道会社とは、人身を守る、時間を守る、約束を守る、その他、様々なルールの厳守徹底が絶対の組織だと思います。そのような組織で佐藤さんは、駅、運輸区、支社等、様々な現場で業務経験とスキルを積み重ね、中心駅である盛岡で助役という大役を務めておられます。

現在に至るまでの道程でのご苦勞は大変なものだったと想像します。

そんな佐藤さんだからこそその熱いメッセージを頂きました。

佐藤さん、有難うございました。(担当：Y)